

地域包括ケア病棟のご案内

地域包括ケア病棟をご存じでしょうか？

当院では2014年5月に4階病棟の52床のうちの8床を地域包括ケア病床として開設し、その後徐々にベッドを増やしてきました。今年3月まで一般病床18床、地域包括ケア病床34床で運営してきましたが、今年の4月にすべてを地域包括ケア病床として届け出を行いました。



地域包括 ケア病棟とは



急性期の治療を終えた患者様は通常すぐに退院されます。しかし、特に高齢の患者様は安静により体力や筋力が

低下される、介護が必要になられるなど、自宅での生活に不安を抱えられる場合も少なくありません。そういった時に「地域包括ケア病棟」に入院していただき、自宅や住み慣れた地域で安心して生活ができます。また発熱など急に体調を崩された場合に、早めに入院をして治療を行う病棟としても機能しています。

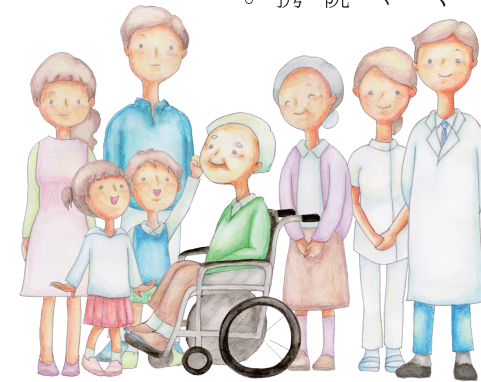
対象になる患者様

- 急性期治療は終了されたが、しばらく経過観察が必要な方
- 在宅復帰にリハビリテーションが必要な方
- 在宅復帰のために療養上の準備が必要な方
- 在宅・介護施設等の入所者で症状が急性増悪した方や、集中治療の必要はないが入院が必要なる方
- レスパイト（介護をする人の事情で短期的に入院すること）が必要な方（30日程度）。

「大したことはないけれどいつもより具合が悪そう」「少しずつ体の動きが悪くなってお世話するのが難しくなってきた」というような場合には、症状が重たくなる前に入院して、治療やリハビリをすることができ

ます。地域包括ケア病棟に入院できる最大日数は、診療報酬で60日と決められています。この期間内で治療やリハビリを行い、ご自宅へ安心してご退院いただけるよう、医師や看護師、介護福祉士、管理栄養士、病棟専従のリハビリスタッフ等が在宅復帰に向けて治療、支援をおこなっていきます。また社会福祉士が患者様の退院支援、制度活用についてサポートさせていただきます。

どうぞお気軽に、かかりつけの先生、または担当のケアマネジャーさんや当院のよりそい支援連携室へご相談ください。



Dr. コラム



整形外科
（一般整形
スポーツ医学）
辻 信 宏

「腰部脊柱管狭窄症」

ようぶせきちゅうかんきようさくしやう

整形外科の辻です。

今回は「腰部脊柱管狭窄症（ようぶせきちゅうかんきようさくしやう）」について、お話しします。

【症 状】

皆さんの中で、中腰なら楽に歩けるが、腰を反らすと足に痛みやしびれが走る。しばらく歩いていると足がしびれてだるくなって歩けなくなるが、しばらく座ったりしゃがんだりするとまた歩けるようになるといった症状をお持ちの方はいらっしゃるでしょうか？

【診 断】

背骨の中で脊髄という大事な神経が通っている管を「脊柱管」と言います。年配の方でいろいろな理由でこの管が狭くなる病気を「脊柱管狭窄症」、それが腰に起こることが多いので、「腰部脊柱管狭窄症」と言います。

右記のような症状が特徴で、MRI（磁気を使った断層撮影）という検査ではっきりと診断がつきます。

【治 療】

当院には残念ながら、MRI装置がありませんが、レントゲン検査や症状で診断がつけば、体操を指導させていただいたり、神経の血管を広げる薬を処方することで、症状を和らげることができます。

ぜひ、辻までご相談ください。

新入職員紹介



Ranko
Takishita
滝下 蘭子

（4階病棟）看護師

看護師になろうと思ったのは、家族が入院した時に看護の仕事を見て影響を受けたことがきっかけです。病棟看護師として少しでも多くの患者さんを助けて地域医療に貢献したいと考えています。また患者さんとじっくり向き合い、個別性のある看護を提供したいと考えています。九州出身で京都にきて10年が経ちました。一生懸命笑顔で頑張ります。



Yukari
Sobata
蘓畑 優花莉

（4階病棟）看護師

姉が医療職に就いていて、その影響を受け看護師を目指しました。知識や技術を身につけ、一人前の看護師になることが目標です。一所懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。



Arisa
Ukai
鵜飼 亜里沙

（3階病棟）看護師

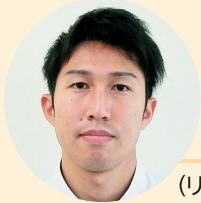
入社したばかりで、又看護師としても新人であるため、毎日緊張と覚えることに迫られる日々です。患者さんとゆっくり関わることがまだできていない状態ですが、患者さんの思いを大切に寄り添える看護が出来るよう、又早く先輩方のように知識や技術を身に着け一人前の看護師として働けるようになりたいと思っています。地域にも貢献できるような日々学びを大切にしていきたいと思ひます。宜しくお願い致します。



Naoko
Kinoshita
木下 奈緒子

（3階病棟）看護師

看護師を目指したきっかけは、子供の頃に病院へ通うことが多く、その時に優しく接してくれた看護師さんに憧れたからです。目標は地域や患者さんに寄り添った看護ができるようになることです。仕事と家庭どちらも笑顔で過ごせるように頑張りたいと思います。



Tatsuro
Higashi
東 達朗

（リハビリテーション課）
理学療法士

理学療法士を目指したきっかけは、ケガをした人と関わることができ、サポートしたいと思ったからです。目標は様々な分野のことを学び成長していきたいと考えています。一つひとつ勉強して頑張りたいと考えていますので、よろしくお願い致します。



Madoka
Koishibara
小石原 まどか

（栄養課）管理栄養士

食べることは元気の源です。生きていく中で大切な「食」にかかわる仕事がしたいと思い管理栄養士になりました。患者様ひとり一人に合う食事の提供ができるよう日々勉強し、早く皆さまの役に立てるようになるのが目標です。まだまだ未熟ですが、様々な方との関わりを大切にしたいと考えています。これからよろしくお願いいたします。

新任医師 紹 介



内 科
須藤 佳樹

はじめまして。4月より赴任致しました須藤佳樹と申します。私は東京の病院で、腎臓内科を専攻しておりました。子育ての関係で、妻の実家である福知山市に転居しまして、京都協立病院さんに巡り合ったという次第です。

就職前に、玉木先生、寺本先生に地域医療の魅力・大変さを教えて頂きました。私は医局の人事の関係で東京郊外、千葉県、静岡県と地域の中核病院で仕事をしてきた経緯がありましたので、きっとこちらの病院で今までの経験を活かして行けると考えております。

プライベートでは、寺社仏閣や温泉巡りが好きです。言うまでもなく京都は歴史的建造物が多くて有名ですが、福知山市にも伊勢さんと呼ばれる神社がありまして、行ってきました。荒削りな石階段を越えて、内宮にお参りをしました。

京都に住み始めてまだ数ヶ月ですが、楽しく過ごしております。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

